

25年前と25年後…

25年前、九十九伸一氏はイタリアのミラノに渡り、聖アンブロジオ教会にあるレリーフの「聖杯とパン」に目が止まる。1980年10月10日、その「聖杯とパン」を九十九氏のイメージで油絵にした。



25年前の「聖杯とパン」と…

25年前、山元眞氏は新田原教会で神父になる。1980年3月21日から今日にいたるまで、ほとんど毎日、自分がデザインした「聖杯」でミサをささげてきた。



25年前に作られた「聖杯」

九十九氏が描いた二次元の「聖杯」と山元神父がデザインした三次元の「聖杯」は驚くほど似通っている。九十九氏が渡欧して25年。山元氏が神父になって25年。今年九十九氏は50歳になり、山元神父は52歳になり（数字を逆にすれば25）、行橋教会は創立50周年を迎えた。行橋市生まれの二人が出会い、行橋教会の聖堂改装が二人を中心に進められ、それぞれの「聖杯」がここにきて出会ったことに不思議を感じる。ちなみに山元神父は1981年6月から86年12月までイタリアに滞在している。二人はイタリアのどこかですれ違っていたのかもしれない。

聖堂改装と九十九氏と山元神父

2003年の夏、無名の方々から聖堂の長椅子のプレゼントをいただいた。その年の創立記念日（11月27日）から創立50周年の準備が始まった。聖堂の改装が計画され、ある方からステンドグラスのためにと寄付をいただいた。山元神父は製作者のあてもなく、とりあえずデザイナーのM氏に相談した。おりしも行橋市出身でバルセロナで活躍中の画家、九十九伸一氏が12月に帰国するという。とりあえず会ってみたらということになり、12月17日、二人の共通の友人のM氏の紹介で九十九氏と山元神父は初めて出会うことになる。目が合い、握手した瞬間、ビビッと何かを感じたことを覚えている。M氏に頼んで九十九氏のいくつかの作品を写真で見せてもらった。当時、九十九氏の作品を理解することはできなかったが、彼の目指していること…ほんものを追及する姿勢にはこころから賛同できた。ステンドグラスのデザインを九十九氏に依頼することについては教会のおもだったメンバーも不安の様を呈していたが、ともかくわたしを信頼してまかせてくれるようお願いし、了承を得た。それから二年後、聖堂の改装が一応の完成をみた。